

都市再生整備計画  
羽生田駅周辺地区  
(第1回変更)

新潟県 田上町

令和元年7月26日

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	新潟県	市町村名	田上町	地区名	羽生田駅周辺地区	面積	60.5 ha
計画期間	平成 28 年度 ~ 平成 32 年度	交付期間	平成 28 年度 ~ 平成 32 年度				

**目標**  
**【大目標】町の拠点としての羽生田地区の賑わいづくり**  
**目標1:多様なつながりを生み出す都市機能の整備**  
**目標2:公共機能相互のネットワーク化**  
**目標3:町民参加による新たな地域価値の創造**

**目標設定の根拠**  
**【まちづくりの経緯及び現況】**  
 田上町は、新潟市の南に隣接する農業と観光を基幹産業とした人口約1.3万人の町である。町のほぼ中央に新潟市方面と三条市方面とを結ぶ国道403号（現在バイパス整備中）及びJR信越本線が配置され、羽生田駅と田上駅の2つの駅を有する。町の人口は平成12年をピークに減少に転じ、概ね25年後の平成52年には人口が現在の2/3以下に、高齢化率が約46%となることが予測されている。急速な少子・高齢化に直面する中で、今後、人口減少を抑制することと併せて、高齢者を含めた町民が生きがいを持って元気に暮らせる定住環境の形成が求められている。また地域資源を活かすつ町に賑わいと活力を取り戻し、持続可能な都市を形成していくため、「町の魅力を引き出す郷土愛をもったまちづくりの核となる人材の育成」が急務となっている。  
 こうした状況の中で、町では「コンパクトなまちづくり」を標榜し、公共交通の中心であるJR田上駅と羽生田駅周辺をそれぞれ「地域拠点」と位置づけ、町民が便利に安心して暮らせる都市整備を目指している。本計画地区である羽生田駅周辺は、商業や医療等生活サービス機能の集積に加え、町役場庁舎、総合保健福祉センター、商工会館、幼稚園、中学校など、町の公共公益機能が集まり、町の中心としての役割を担う地区である。本地区では、既存公共機能どうしの連携を図りながら、更なる都市機能の集積強化により町の中心部としての魅力を強化するとともに、高齢者を含めた町民がこれらの公共施設を利用しやすくなることで、多様な交流が広がる拠点地区の形成を目指している。また今後は、国道403号バイパス沿いの町役場庁舎の隣に「道の駅」(H28年1月「重点道の駅」に選定された)の整備が予定されており、道の駅整備にあわせて交流・コミュニティ拠点を整備することで、道の駅への来町者との交流を起爆剤とした新たなまちづくりによる地方創生が期待されているところである。  
 さらに、田上町は県内トップの筍の産地であるとともに、竹、梅、曽根人参など特産品もあり、現在これらの地域資源を活かした商品開発や体験学習などが行われ、地域経済の活性化と併せて魅力あるまちづくりに向けた取組みが進めてきている。なお、当町では、平成28年度から「立地適正化計画」の策定に着手し、コンパクト+ネットワーク型の都市形成に向けた着実な取組みを進めていく予定である。

**課題**  
**1.地域拠点である羽生田駅周辺の都市機能の強化**  
 交通結節点である鉄道駅と中心に町役場、福祉施設、幼稚園、中学校などの公共機能が集積する本地区について、「コンパクトなまちづくり」の理念のもと、さらなる都市機能の集積により賑わいのある地域拠点の形成に向けて魅力を強化することが求められている。  
**2.多様な交流が広がる新たな交流拠点づくりと賑わいの創造**  
 長年の町民の願いである「高齢者を含む町民が社会と関わり、町民どうしがつながりあえる『まちづくりの核』となる新たな交流施設」を、老朽化が著しい公民館(昭和36年建設)や文化施設としても利用してきた町民体育館(昭和48年建設)の機能を踏まえて、機能整理・集約により施設を再編整備することが必要となっている。また、新たに整備予定の地域創生の核である重点「道の駅」との連携により、来町者との多様な交流を拡げること、地域の賑わいの創造や経済の活性化に活かしていくことが求められている。  
**3.まちおこしのための核施設の整備**  
 田上町が有する筍、竹、梅、曽根人参などの地域資源を活用した地域ブランド商品の開発・研究・広報などに関する地域団体の主体的な取組みが行われている。これらの活動を支援することで地域産業の活性化を図るため、活動場所の受け皿となる核施設の整備を進めることが必要となっている。  
**4.公共施設どうしの連携性の強化とまちなかへの人の誘導**  
 多様な公共機能が分布する一方で相互に移動しづらい本区内において、市街地のにぎわい再生と公共機能利用の利便性向上のため、公共施設等を相互に連絡する安全な歩行者ネットワークを形成することが必要となっている。また、交流やまちおこしの拠点として新たに整備される施設を中心に、まちなかへも多くの人を誘導することで、さらに多様な交流と賑わいを創造していくことが必要となっている。  
**5.町民のまちづくりへの参加の促進**  
 人口減少と高齢化が進む中で、町民のまちづくりへの主体的な参加を促すことで、地域に根ざした環境整備や町民による地域価値の再認識、財政負担軽減などにつなげることが必要となっている。

**将来ビジョン(中長期)**  
**【田上町総合計画】平成24年3月策定**  
 「みんなでつくる暮らしの満足度の高いまち」をまちづくりの理念とし、「健康でやさらかな暮らしの創造」、「豊かさで生きがいに満ちた暮らしの創造」、「にぎわいと活力あふれる暮らしの創造」などを目標に掲げ、「羽生田駅周辺」について町民や来訪者が利用する玄関口としての利便性の向上を目指している他、「町役場周辺」を行政サービスのみならず町の中枢機能としての利便性向上と機能充実を目指す方針を掲げている。  
**【田上町都市計画マスタープラン】平成26年3月策定**  
 人口減少と高齢化への危機感を前提として「活力と癒しの共生でコンパクトに輝き続けるまち田上」を基本方針に掲げている。  
 鉄道駅周辺を生活の中心となる「地域拠点」と位置づけ、日常生活に必要な都市機能の集積と求心力の向上を目指している。特に、「地域拠点」である羽生田駅周辺地区について、駅機能の強化、生活利便施設の誘導、高齢者に優しい住環境の整備、駅から役場・保健センター・原ヶ崎センター方面への歩行環境の整備、下水道整備などを進めることを方針としている。

**目標を定量化する指標**

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
(仮)地域交流会館利用者数	人/年	(仮)地域交流会館の年間利用者数実測値を集計する。	町民のグループ活動促進や各種イベント開催、道の駅等来町者との連携により(仮)地域交流会館の利用者数の増加を目指す	19,288人 (旧公民館)	H26年度	34,000人	H32年度
まちおこし活動参加者数	人/年	原ヶ崎交流センターにおけるまちおこし活動延べ参加者数を集計する。	原ヶ崎センターにおける特産品の開発・研修の実施、教育機関と連携した体験学習の拡大等により、まちおこし活動参加者の新たな発掘・増加を目指す	1,830人	H27年度	15,000人	H32年度
町民の暮らしの満足度	点	町が実施する町民アンケート結果で、「高齢者の生きがいづくり」、「地域資源を活用した活動の促進」、「多様な交流の推進」の3項目に関する満足度の点数を調査する。	町民活動・イベント、町民交流、来町者との交流、まちおこし活動などを推進し、満足度の向上を目指す	141.1点	H23年度	152.8点	H32年度

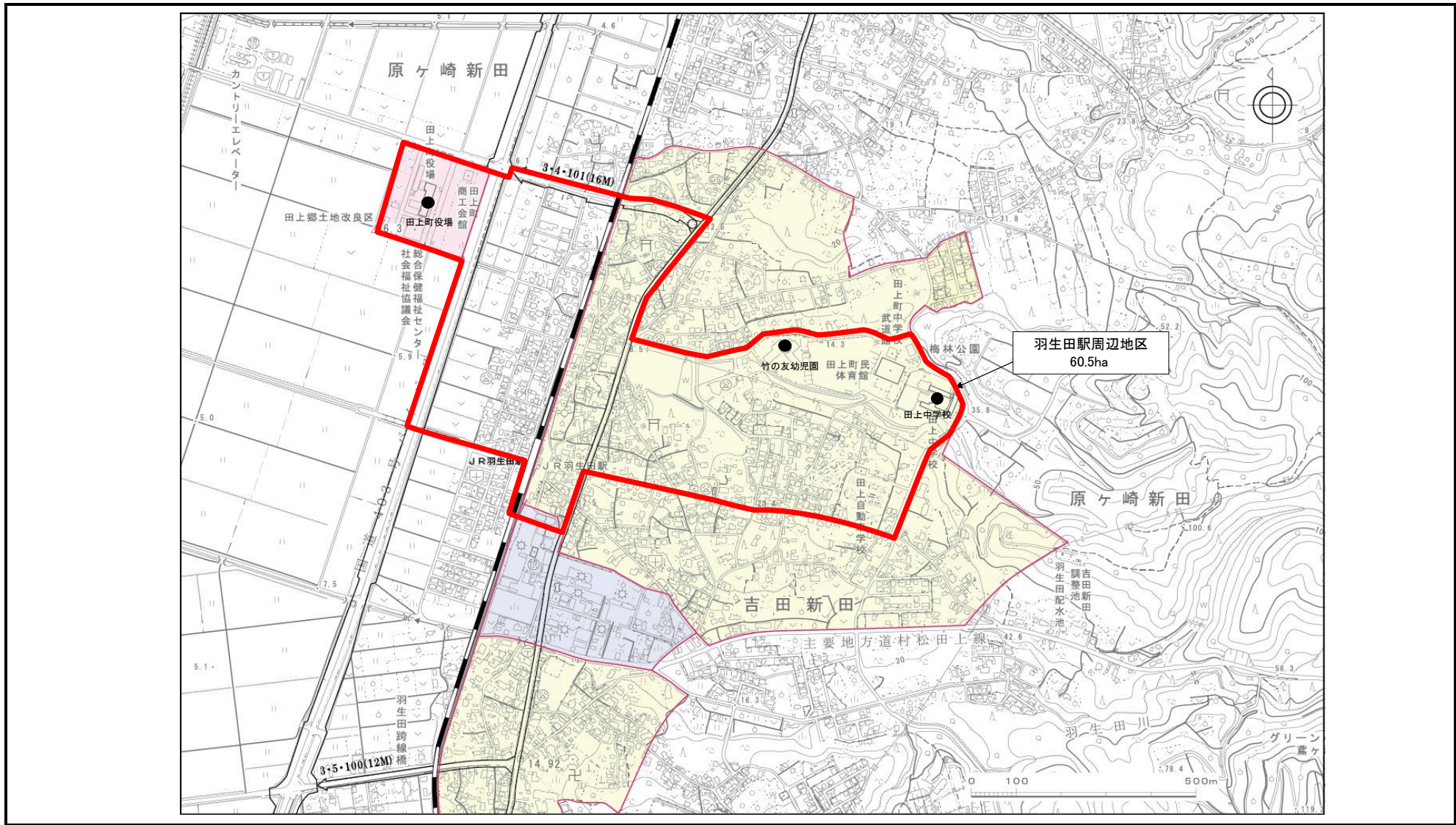
都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p><b>目標1：多様なつながりを生み出す都市機能の整備</b>  <b>整備方針</b>                      鉄道駅を中心に町役場等公共機能が集積する本地区において、まちづくりを行うため、道の駅整備にあわせて町民どうしの新たな交流・コミュニティの拠点となる「(仮)地域交流会館」を整備する。あわせて、子どもからお年寄りまで多様な人が集い、イベントによる交流が図れる「憩いの広場」を整備し、来町者と町民との交流を助け、(仮)地域交流会館利用者数の拡大も図っていく。さらに道の駅への来訪者をJR東側の市街地方面へ誘導するため、魅力あるイベント・観光情報などの地域情報を発信する地域観光情報案内施設を整備する。                      また、中学校や幼稚園、竹林、梅林などが近接するこの地域に、地域資源を活かした新たな取組みを先導する地域団体等の活動の場として「原ヶ崎センター」を整備する。さらにこの隣接地に、竹林を利用した体験学習など、屋外の地域活動の場となる「原ヶ崎運動広場」を整備することで、原ヶ崎センターと同様に、包括的に「まちおこしの核となる、郷土愛をもった人材育成」を図るための環境整備を進めていく。</p>	<p>《基幹事業》                      ・公園：原ヶ崎運動広場整備事業                      ・地域生活基盤施設(緑地・広場)：憩いの広場整備事業                      ・高次都市施設(地域交流センター)：(仮)地域交流会館整備事業                      ・高次都市施設(観光交流センター)：地域観光情報案内施設整備事業                      ・既存建造物活用事業：原ヶ崎センター整備事業</p> <p>《提案事業》                      ・事業活用調査：事業効果分析調査</p>
<p><b>目標2：公共機能相互のネットワーク化とまちなかへの人の誘導</b>  <b>整備方針</b>                      町役場隣接地に新たに整備する「(仮)地域交流会館」方面と「原ヶ崎センター」方面、さらに駅とを結び、歩行者ネットワーク「あじさいロード」(シンボルマーク、誘導サイン等)を整備するとともに、自転車でも手軽に町内各地へ移動できるよう、主要施設にレンタサイクルを設置する。これにより、交流やまちおこしの拠点として新たに整備される施設を中心に、さらにまちなかへの人の流れを促すことで、来訪者と町民との新たな出会いの創出とまちの賑わいの再生を図る。さらに、町民の誰もが生涯にわたり健康で幸せに暮らし続けられるよう町民の健康増進を促すため、施設間の回遊性を考慮した歩きやすく移動しやすい安全な歩行等環境整備を進めていく。</p>	<p>《基幹事業》                      ・高次空間形成施設(緑化施設等)：あじさいロード整備事業                      ・高次都市施設(観光交流センター)：地域観光情報案内施設整備事業【再掲】</p> <p>《提案事業》                      ・事業活用調査：事業効果分析調査【再掲】</p>
<p><b>目標3：町民参加による新たな地域価値の創造</b>  <b>整備方針</b>                      「(仮)地域交流会館」と「原ヶ崎センター」を核として、町民どうしや町民と来町者との交流を助け、まちのにぎわいを創造するとともに、町民参加による新たな特産品開発などにより、町の魅力を発信し、地域経済の活性化を目指す。                      また、学校と連携して、子どもの頃から地域への愛着を醸成し定住意識を高める取組みや、地元大学の学生と連携した健康なまちづくりの取組みなど、魅力あるまちづくりを推進する。</p>	<p>《基幹事業》                      ・公園：原ヶ崎運動広場整備事業【再掲】                      ・地域生活基盤施設(緑地・広場)：憩いの広場整備事業【再掲】                      ・高次空間形成施設(緑化施設等)：あじさいロード整備事業【再掲】                      ・高次都市施設(地域交流センター)：(仮)地域交流会館整備事業【再掲】                      ・高次都市施設(観光交流センター)：地域観光情報案内施設整備事業【再掲】                      ・既存建造物活用事業：原ヶ崎センター整備事業【再掲】</p> <p>《提案事業》                      ・事業活用調査：事業効果分析調査【再掲】</p>
<p>その他                      ・道の駅整備事業：国道403号バイパス沿道の町役場等と隣接した場所に「道の駅」を整備する。                      ・観光体験農園整備事業：道の駅及び(仮)地域交流会館の東側(バイパス向い側)に、地元産果樹・野菜などの収穫体験(イチゴ・桃など)ができる観光体験農園を整備する。                      ・既存建築物解体撤去事業：旧公民館施設を解体撤去する。                      ・原ヶ崎センターを活用して、町内で出土した貴重な遺跡の展示を検討する。                      ・地元大学と連携して健康づくりに関する取組みを進める。</p>	



都市再生整備計画の区域

ばにゅうだまきしゅうへんちく にいがたけんたがみまち 羽生田駅周辺地区(新潟県田上町)	面積 60.5 ha	区域 田上町羽生田駅周辺地区
--	------------	----------------



### 羽生田駅周辺地区(新潟県田上町) 整備方針概要図

目標	[大目標]町の拠点としての羽生田地区の賑わいづくり	代表的な指標	(仮)地域交流会館利用者数 (人/年)	19,288人 (平成26年度)	→	34,000人 (平成32年度)
	目標1:多様なつながりを生み出す都市機能の整備		まちづくり活動参加者数 (人/年)	1,830人 (平成27年度)	→	15,000人 (平成32年度)
	目標2:公共機能相互のネットワーク化とまちなかへの人の誘導		町民の暮らしの満足度 (点)	141.1点 (平成23年度)	→	152.8点 (平成32年度)
	目標3:町民参加による新たな地域価値の創造					

